

第46回定期中央委員会開催！ 2024JR総連春闘方針を全会一致で確立！

2024JR総連春闘スローガン

- 1.一律賃上げ獲得!すべての要求実現!統一要求・統一闘争で
全職場・全組合員と共に2024JR総連春闘をたたかい抜こう!
1. JR総連の旗の下、労働組合の力を発揮し、
低額相場と労働者間の分断・競争・格差拡大に抗し、労働者の
団結・連帯・共闘を実現しよう!

JR総連統一ペア要求 12,000円決定!

JR総連は1月26日、目黒さつきビルにて「第46回定期中央委員会」を開催し、2024JR総連春闘をペア「12,000円」の要求を掲げ、「統一要求・統一闘争」でたたかう方針をはじめ、当面する方針について満場一致で決定しました。

中央委員からは、能登半島地震、2024JR総連春闘、安全確立、ローカル線の維持・活性化、物流ネットワークの確保、平和を守るたたかい、組織強化・拡大などの課題について、方針を補強する発言が出されました。特にJR総連春闘について、JR総連の旗の下に結集し、共にたたかうという発言が相次ぎ、8単組・労連が同じスタートラインに立ったことが確認されました。

2024JR総連春闘を「統一要求・統一闘争」で職場からたたかい抜こう!

私たちをとりまく情勢は、相次ぐ物価高やエネルギー価格の高騰などの影響を受け、厳しい生活を余儀なくされています。厚労省が2月6日に発表した2023年の毎月勤労統計調査によると、実質賃金は21カ月連続でマイナスとなり、賃金が物価上昇に追いついていません。こうしたなかで、賃上げの機運は2023春闘以上に高まっております。組合員の賃上げに対する期待は大きくなっています。またJR旅客各社の業績が回復基調であることを鑑みれば、昨年以上の要求を据えてたたかかない理由はありません。

この2年間JR北海道労組とJR貨物労組は、連続ペアを実現しましたが、他の単組・労連は、22春闘ではペアゼロに終わり、23春闘においては、加盟8単組すべてでペアを獲得しましたが、満足のいく結果とはなっていません。

いまこそ労働組合が一致団結して、春闘本来の目的である賃上げにこだわり、ベースアップを求めてたたかなくてはなりません。

JR総連は、連帯・共闘をさらに強化し、雇用と労働条件を守り抜き、非正規労働者を含むすべての仲間の雇用、賃金、労働条件の維持・改善をめざします。さらに、反弾圧・安全・脱原発・平和の諸課題と結合し、8単組・地協・労連の仲間とともに、職場から一糸乱れず、2024JR総連春闘をたたかい抜き、賃上げ満額獲得、組織の強化・拡大をかちとろうではありませんか!

第46回定期中央委員会 山口委員長挨拶 (要旨)



政策実現について

「能登半島地震」では、組合員の人的被害はないが、自宅・実家の被災が報告されている。緊急支援カンパを成功させ、組織の力を被災された組合員の支えにつなげよう。

珠洲市に計画された原発に対し、反対運動によって阻止できたことを改めて評価する報道が続いている。原発はひとたび人の管理できる範囲を超えて事故が起きた場合、きわめて甚大な被害を及ぼすのは東日本大震災で経験済み。脱原発のたたかいを強めなければならぬ。

2024 JR総連春闘では、12,000円という定額ベア要求を提起する。要求満額を勝ち取ることはもちろん、たたかいの課程を大事にしていきたい。連帯・共闘の強化を通じて、JR総連傘下の労連を実感できるJR総連春闘にしていこう。

2024春闘は経営側と労働側が総じて「賃上げ」という熱気に包まれている。JR総連春闘は経営側の言う「賃上げ」に対し、組合員の措かれた現実立ち、組合員の生活実態を基礎に生活向上をめざし団結してたたかい抜く。そして労働組合の必要性を訴え、組織拡大・強化につなげ、勝利の道を切り拓くのではないか。

2024 JR総連春闘について

改正地域交通法が施行され、具体的な議論が始まっている。より一層、関係自治体との連携体制が必要。私たちの課題は、再構築協議会の設置がされた場合、「実証事業」に私たちの政策を組み入れ、会社が行う協議会

の場合、地元の声を反映するよう関係者への要請行動などが必要。

貨物輸送を守るたたかいとして、昨年、全港湾や海員組合とも交流し、海運の側から見た物流について勉強してきた。JR貨物労組と連携して課題解決に向けて取り組んでいく。

JR北海道とJR貨物への来年度からの支援策の策定についても大詰めを迎えている。JR総連は、推薦議員懇談会所属の国会議員とともに、今後も職場の実態を織り交ぜながら、労使議論のみでは解決が難しい課題に取り組んでいく。

安全確保について

昨年、協力会社の社員3名が感電や触車で亡くなった。他にも命に係わる事象が後を絶たない。JR総連は単組からの情報をもとに原因究明の議論を行ってきたが課題を残している。事象の発生の情報共有、JR総連内での議論の全体化などについて検討を加えていく。

1月23日、東北新幹線大宮駅付近で架線が垂下し、「かがやき504号」のパンタグラフを破損、停電により多くのお客様の救済、運転見合わせが発生。さらに復旧作業中の作業員が感電により重傷、助けに入った同僚作業員も手やけなどを負う傷害事故も発生。

原因は、架線を引っ張っている「重錘ロッド」の破断。新幹線開業以来38年間使い続けられてきた。現場では約6年前から交換すべきという指摘があつたが、手間がかかるなどと先延ばしにされてきた。JR東日本は、グループ安全計画2028で「本質をふまえ、想定外も想像して安全を先だる」という前に、「危険が予測されたことを放置せず、直ちに安全対策を行う」と改めるべき。

復旧作業中の感電傷害事故にいたる経過は調査中だが、これまで「命を守ることを絶対的価値観」として安全な現場を創り出し、「いつか大きな事故が起きるのではないか」と警鐘を發してきた私たちがからすれば、予測的中し始めている。現場の問題だけでなく、現地対策本部

平和について

約2年にわたるロシア・ウクライナ戦争、昨年10月からのイスラエルとハマスの武力衝突は一向に収束のめどは立たない。そればかりか世界は軍事的、政治的、経済的、宗教的と様々な場面で対立が激しさを増している。様々な対立は結局のところ「武力」による対立として立ち現われ、権力者の意図の裏側で民衆が犠牲になっている。何度も繰り返しているが、政治についての意識を高め、選挙などに積極的に取り組む仲間の拡大が必要である。JR総連は9条連の仲間とともに連帯・共闘の強化をめざし、集会や講演会の取り組みを行い、組合員の平和への価値観を高めていく。

組織強化・拡大について

様々なたたかいとつて組合員の団結、加盟各単組の団結は必要不可欠。しかし残念ながら現在、JR東海労新幹線関西地本HPに、JR東海労第40回臨時大会の議事録同様の文書が公開。組織破壊に与する行為だと自覚すべき。JR東海労は、このような事態を一刻も早く解決していただくことを要請する。

私たちを取り巻く現実には極めて厳しい中にあつて、それを切り拓いていくのは強い団結、組織力である。そのエネルギーを組織拡大に結実していこう。JR総連は山積した課題に対し、先頭に立ってたたかいをけん引していく決意である。JR総連の旗のもとに結集し、団結してたたかおう。ありがとうございました。

委員の発言 (要旨)

能登半島地震について

- ・新年早々、能登半島地震が発生。緊急支援カンパの取り組みに感謝。組合員と家族が、一日も早く地震発生前の生活を取り戻せるよう、協力をお願いする。

2024 JR総連春闘について

- ・さらなる生活維持・向上を実現し、組合員が希望を持てるように、統一要求・統一闘争でたたかっている。交渉にあたっては、波及効果を出せるようたまたかっていく。
- ・近年、春闘は経営側に付度し、連合要求にも満たない要求を掲げ、低額相場が持ち込まれてきた。こうした流れに歯止めをかけ、春闘本来の意味合いを踏まえ、統一要求・統一闘争で、JR総連の旗の下に結集し、要求満額を目指し職場からたたかいていく。

政策実現について

- ・昨年12月に地方交通労働協と地方運輸局との行政懇談会に参加し、再構築協議会への労働者の参画について意見した。地方運輸局からは、芸備線や他の事例も含めて検討するとし、選出方法について定まっていな。労働者の出席実現のために、自治体や地域の議員との連携も必須な課題。
- ・伯備線貨物輸送関係者会議を開催。JR総連からも出席いただき、米子駅と伯耆大山駅の現地視察をおこなった。JR貨物の存立基盤を守るたたかいは政治が密接に関わってくる。これからもJR総連と連携するとともに、推薦議員懇談会所属の国会議員の要請をお願いする。

安全確立について

- ・東北新幹線上野〜大宮駅間で停車・感電事故発生。職場では6年前から設備が古いと話が出ていた。しかし、手間がかかる、工事指揮

委員の発言 (要旨)

者が足りないなどで先送り。組織再編に伴う予算配分など、多くの課題も孕んでいる。また、復旧作業中、協力会社社員が感電する二次災害も発生。三大労災が繰り返し発生している。重大事故に強い危機感を持ち、原因の究明をすすめていく。

平和について

会社への不当労働行為、パワハラはエスカレートしている。働くことで命が脅かされ、健康が損なわれている現実で良いのか、今声を上げないと何も変わらないと訴え、組合員に寄り添い、現場第一で団結を強化していく。責任追及から原因究明に取り組み。

組織強化・拡大について

ひがし労働の攻撃を跳ね返してきた。なぜこれが成し得たかというところ、指導部が自らの姿勢と見解をはっきり示してきたからである。

組合員・家族の生活と将来にとつて重要な局面、だからこそJR総連に力を結集しなければならぬ。

外部にネタを提供するJR東海労働新幹線関西本線HPは言語道断。徹底して調査を行い、当該者には自省自戒を求めべき。

いかなる組織破壊、分断攻撃を許さず、JR総連並びに各単組との連帯・団結を強化して、共にたたかおう。

再編に伴う予算配分など、多くの課題も孕んでいる。また、復旧作業中、協力会社社員が感電する二次災害も発生。三大労災が繰り返し発生している。重大事故に強い危機感を持ち、原因の究明をすすめていく。

能登半島地震について

被災された組合員に寄り添い、支援カンパの取り組みを成功させよう。さらなる支援が必要な場合は、単組と連携して取り組んでいく。今回の地震で改めて原発の危険性が明らかとなった。脱原発のたたかいは推し進めていく。

2024 JR総連春闘について

統一べア要求一律12,000円を掲げる。実質賃金が20カ月も連続して下回り、23春闘での運輸産業の賃上げは、他産業3.58%賃上げに対して、2.50%と1%も下回っている。また、政府・経団連の構造的賃上げの内容は、リスクリング、学び直し、職務給、ジョブ型成果主義の導入。そして成長分野への労働移動である。その狙いを共有し、組合員とともに跳ね返していかなければならない。このような苦しい現実には、組合の生活向上を目指し、単組・地協・労連の仲間たちと一体となって、職場からたたかいていく。

安全確立について

重大事故が多発している。安全なしに労働なしということについて、改めて立ち止まって考え、職場は、作業はどうなっているのか、捉える必要がある。JR東海組から、パワハラ、不当労働行為についても発言があった。私たちは労働組合の使命として、パワハラ、不当労働行為を職場から一掃しなければならぬ。JR総連は、JR東海組のたたかいを支え、推薦議員懇談会や弁護団会議と連携を取ってたたかいていく。

政策実現について

ローカル線を守るたたかいは、

能登半島地震について

地域とたたかいは具体的に推し進めて、連帯が作り出され、鉄道と地域の未来を守るたたかいは前進が確認できた。物流の課題についても、改めて現場から現実を知ること、そして議論し、知恵を出し合い、提言することの必要性が訴えられ、成果も確認できた。JR北海道とJR貨物の支援策の正念場を迎える。推薦議員懇談会と連携し取り組んでいく。

平和について

今もパレスチナで罪のない人々が殺されている。昨年12月に国連で停戦を求めた決議に、またしてもアメリカは拒否権を行使。アメリカは停戦を求め、世界各國を裏切り、イスラエルと共に虐殺行為に手を出している。日本はそのアメリカと一体となって、軍事基地の拡大、弾薬庫の拡大など戦争体制を構築し、殺傷能力のある武器の輸出を解禁したことで、戦争に協力する日本になった。岸田首相は、戦争推進国家をつくり上げようとしている。私たちは憲法9条改悪、軍事大国化、武器輸出を許さず、職場、地域から、9条連の拡大、職場と地域の連帯を強化し、未来のために二度と戦争に協力しないたたかいを、全国的なうねりとしてつくりだそう。

組織強化・拡大について

JR東海労働新幹線関西本線のHPが組織破壊に使われている問題は看過できない。JR東海労働は、組織問題を解消するための組織指導と、早急にHP上からの削除を要請する。JR総連は、内外の組織破壊行為並びに組織破壊者たたかいは抜く。未来は、実践でしか切り拓くことはできない。

いかなる組織破壊、分断攻撃を許さず、JR総連並びに各単組との連帯・団結を強化して、共にたたかおう。

私たちの眼前には多くの課題が山積している。JR総連の旗の下に単組・地協・労連の仲間たちが結集し、2024 JR総連春闘を始めとする、全てに勝利するために、たたかいていく。

安全確立について

ローカル線を守るたたかいは、

政策実現について

ローカル線を守るたたかいは、

2024年「旗開き」「新年の集い」を開催！

2024年旗開き

JR総連は1月10日、目黒さつきビルで「2024年旗開き」を開催しました。冒頭、1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」で亡くなられたすべてのの方々へ参加者全員で黙とうを捧げました。

山口委員長は「能登半島地震による組合員への人的被害はなかったが、家屋への被害が出ている。今後JR総連として、支援の取り組みを進めていくことを明らかにした上で、「2024JR総連春闘勝利」「ローカル線存続と鉄道貨物の全国ネットワーク維持・活性化」「憲法9条改悪反対」「脱原発」などの諸課題の解決に向けて、加盟各単組の団結とさらなる連帯・共闘の強化を訴えました。続いて、熊谷書記長より基調報告をおこない、向こう一年のたたかう方向性を確認しました。



法政大学教授・山口二郎様

その後、法政大学法学部教授・山口二郎様より「2024年の日本と世界」と題して講演をいただき、腐敗した自民党政治の問題、岸田政権が推し進める安全保障問題、略奪等について問題提起を受け、人口減少社会を迎えている日本社会の展望を切り拓くためには、野党の集結を図り、自民党政権に代わる受け皿をつくる必要があると語られました。

2024年新年の集い

旗開き終了後、目黒・雅叙園にて「2024年新年の集い」を開催し、連合・交通労協、各産別のみなさま、JR総連推薦議員懇談会をはじめ、多くの国会議員のみなさま、友好団体のみなさまに参加をいただきました。それぞれの代表者から、JR総連への激励と期待が述べられました。また、NPO法人・日本雲南聯誼協会より、この間のJR総連と各単組による小学校建設支援などの取り組みに対して、感謝状が手渡されました。

JR総連は、日本の競争体制強化に反対し、平和で安心して暮らせる社会を実現するために、志を同じくする方々との連帯・共闘をさらに強めてたたかってまいります。



「令和6年能登半島地震」組合員支援・視察行動！

1月31日、JR総連を代表して山口委員長・熊谷書記長は、JR西労・JR貨物労組本部とともに、「令和6年能登半島地震」で被災された組合員への支援と現地視察をおこなってきました。

被災地は、道路の隆起や陥没、ヒビ割れなど状態が悪く、復旧作業にむけた瓦礫の撤去作業などと思うように進んでいません。また、被災地の各自治体のボランティア受け入れ態勢も、断水などの影響で十分に整っていない実態を目の当たりにしてきました。

被災した組合員からは、「自宅が倒壊の危険性があり、避難生活を余儀なくされている」「先々のことを考えると不安。仲間といるときはいいが、一人になると辛い」など、不安な思いが語られました。

「令和6年能登半島地震」支援カンパについては2月29日で集約します。ご協力いただいているすべての組合員に感謝を申し上げます。なお、集められたカンパ金は、該当する単組を通じて、被災された組合員へ直接手渡されます。



被災された西労組合員のもとへ足を運ぶ



富山機関区分会組合員と意見交換

Rorosan
はたらくあなたの、いちばんそばに。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

「もしも」に備え「もしも」を防ぎ
「もしも」に向き合う。

公式キャラクター ビットくん

たすけあいの輪をむすぶ
こくみん共済〈全労済〉
全国労働者共済生活協同組合連合会 coop

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

あなたと家族に安心届けます。保険はおかせください。

《取扱商品》

- ▲ 自動車保険・火災保険
- ▲ サークル保険
- ▲ がん保険・医療保険
- ▲ 介護保険
- ▲ JR積立年金
- ▲ すみっこ商店

各種のお問い合わせは、パソコン・スマホ、から可能ですので、ご利用をお待ちしております。

JR総連・各単組賛助団体

鉄道ファミリー 検索

〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-2-13 目黒さつきビル
TEL 03-3490-3862 FAX 03-3491-7198